

すこやか加温



いつまでも健やかに・・・
——私たちの願いです。

医療法人 玉昌会 行動指針

低 賞 感 微

低：全てに謙虚な気持ちで接する

賞：お互いを思いやり敬意を払う

感：全てに感謝する

微：微笑みを添えて態度で示す

巻頭言



院長
夏越 祥次

地域医療へ貢献します。

当院は1978年に病床数100床で開院後、1985年に人工腎臓センターを開設し、人工透析を開始しました。その後、350床に増床し、リハビリテーション施設の承認を受けています。現在は一般97床、療養173床の270床と、介護医療院80床の計350床で運用しています。昨今、地方の人口減少ならびに少子高齢化、病床数の削減により地域医療が厳しくなる中、当院は始良地区のみならず、始良市周辺市町村の患者さんのお役に立てるように努力しています。

低賞感微の気持ちを大切にします。

「いつまでも健やかに…私たちの願いです。」が玉昌会グループ全体の基本理念です。加治木温泉病院では「低賞感微」に沿った医療及び介護サービスを提供します。低はすべてに謙虚な気持ちで接する、賞はお互いを思いやり敬意を払う、感はすべてに感謝する、微は微笑みを添えて態度で示す、を意味します。職員一同は、「低賞感微」の気持ちを忘れずに、患者さんに接するように心がけています。

安心・安全・信頼される医療を目指します。

当院はリハビリテーションが必要な患者さん、透析が必要な患者さん、その他の慢性疾患や悪性疾患を有する患者さんの治療を中心に行っています。外来患者さんはもとより回復期、慢性期の入院患者さんをできるだけ早く自立できるように支援しています。さらにケアレジデンス、住宅型有料老人ホーム、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、デイサービス、グループホームを併設しています。まずは地域の皆様が満足していただけるように、職員が一丸となって、地域に根ざした安心・安全・信頼される医療を目指しています。将来、当院の様々な取り組みが各地域の医療機関と連携できればと考えています。

皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

加治木温泉病院

《理念》

行動指針「低賞感微」に沿った医療及び介護サービスを提供します。

《基本方針》

1. 患者さまの尊厳と権利を尊重した医療・介護を目指します
2. 患者さまの視点に立ち、良質で安心・安全な医療・介護の提供に努めます
3. 地域包括ケアシステムの構築に寄与し、地域のニーズに沿った医療を担い、入院から在宅までの一貫した医療・介護の提供を目指します
4. 病院及び在宅サービス事業部の健全な運営を行い、安心して働きがいのある職場づくりに取り組みます
5. 健診や保健指導により地域住民の健康管理や病気および介護予防に取り組みます

お知らせ



新任医師の紹介



医師	屋 万栄	
診察日	毎週 木曜日 午前 <予約制>	
学会	日本内科学会会員	日本腎臓学会会員
	日本透析医学会会員	日本移植学会会員
資格 認定	日本内科学会認定医	日本透析医学会専門医
	日本腎臓学会専門医	日本腎臓学会認定指導医
	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 学位取得	

令和2年4月に入職しました腎臓内科の屋万栄です。

皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。

《腎臓は全身のバロメーター》

腎臓は血液を濾過して老廃物を尿として体の外に出してくれます。更には、血圧の調整、赤血球や骨に関するホルモン産生、体内の体液量やミネラルの取り込みをする臓器です。慢性腎臓病（CKD）は慢性に経過するすべての腎臓病を指します。患者さんは1330万人（8人に1人）いると考えられ、新たな国民病とも言われています。



CKDは初期には自覚症状がほとんどありません。CKDが進行すると、夜間尿、むくみ、貧血、倦怠感、息切れなどの症状が現れます。CKDがあると、脳卒中や心筋梗塞など心血管病発症のリスクが高まると言われています。また、CKDが進行して腎不全になると最終的には透析や腎移植が必要になります。腎臓が悪くなってしまうと、元の正常な状態に回復することは難しいですが、生活習慣の改善や薬物治療により病気の進行を遅らせることが期待できます。

お知らせ



新任医師の紹介

医師	大田 篤
診察日	毎週水曜日 〈予約制〉

令和2年4月に入職しましたリハビリテーション科の大田篤です。
さつま町出身で、趣味は散歩・ランニング、音楽鑑賞です。
皆様のお役にたてるように精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

《リハビリテーション科について》

病気や外傷で低下した身体的・精神的な機能を回復させ障害を克服するという考え方にに基づき、日常での活動(座る、立つ、話すなど)・家庭での活動(掃除、洗濯、料理など)・社会での活動(学校生活、就業、スポーツなど)の促進を図っていきます。複合的な障害を活動という視点から治療する専門分野ともいえます。



リハビリテーション医療では多くの専門職(医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士など)が関わって治療を行い、情報を共有しながらより良い治療が提供できるように努めています。

面会について

当院には、新型コロナウイルスに感染すると、特に重症化しやすい患者や透析患者が多く入院されています。その為、**新型コロナウイルス感染対策により、面会を一時的に中止する場合があります。**

ご家族がお荷物をもって来院されましても、面会できないままお帰り頂きますことにご大変恐縮しております。

そこで、ご家族間のコミュニケーションツールとしてオンライン面会を開始いたしました。

当院の1階リハビリ指導室と病室をテレビ電話で繋ぐ方法で実施します。

また今後、運用がうまくいくようになりましたら、病院外からの接続も可能となるよう検討させていただきます。



《オンライン面会の方法》

- 面会希望の方は必ずマスク着用にてご来院ください。
- 来院されたご家族様と入院中の患者さんをWebカメラとiPadを使ってオンラインで繋ぎ面会していただきます。
- 面会時間は14時～16時迄（患者さん一人当たり10分間）
要予約制 平日9時～17時 土曜日9時～12時
（面会希望の前日迄に外来受付または病棟へご連絡下さい。）
- 多くのご家族様へご利用いただく為に、パソコンの取り扱いには十分注意してください。
- 許可なく録音、録画、写真撮影はご遠慮願います。
- 面会終了後は速やかにご退室をお願い致します。

新型コロナウイルス感染症について

現在、新型コロナウイルスと呼ばれる病原体が世間を騒がせています。この病原体とその感染症につきましては、いまだ不明なことも多く一部の患者さんでは症状が急速に悪化し、最悪の場合死に至る例も報告されています。

日々国内での感染者数も増え、感染リスクも高まっている中、どのようにこの危機を回避したらよいか。いくつかご紹介したいと思います。

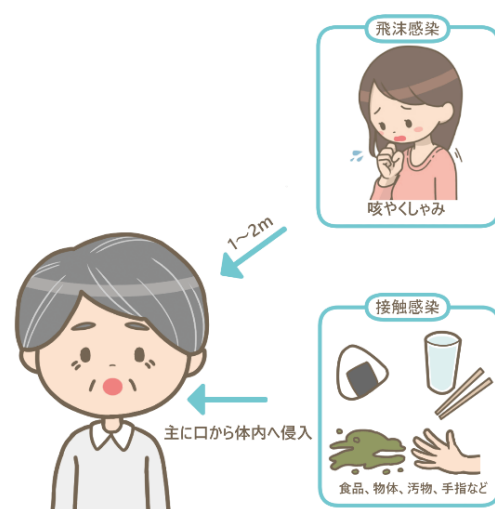
○感染経路と症状

新型コロナウイルスは、飛沫感染・接触感染によって人から人へと移っていくと考えられています。飛沫感染とは、感染者が咳やくしゃみをした拍子にウイルスを放出し、それを他の方が鼻や口から吸いこんで、感染する事です。接触感染とは、感染者が咳やくしゃみを手で押さえた後、その手で周りの物に触れた際にウイルスを付着させ、他の方がその物に触れて、ウイルスを手から口や鼻へと運び、感染する事を言います。

ウイルスの生存時間は、物に付着した状態で約2～3日程と考えられており、殺菌、消毒を行っていないドアノブやつり革などは、触れることで感染するリスクがあると考えてよいでしょう。

もし感染してしまっても、すぐ症状が出るわけではありません。5日程の潜伏期間を経て、発熱・倦怠感・咳といった風邪のような症状を発症します。一般の風邪症状より長く続くのが特徴です。約8割の方は無症状～軽症のまま治癒しますが、2割程度の方は肺炎症状を合併、さらにそのまま重症化し死に至る可能性もあります。特に慢性疾患をお持ちの方や、60歳以上の方は重症化するリスクが高いと考えられます。初期症状として最も多いのは発熱、次いで咳となっています。

長引く激しい咳や、37.5℃を超える発熱が見られた場合、ただちに帰国者・接触者電話相談センターに電話で連絡してください。感染を拡大させる恐れがある為、むやみに外出し受診をすることが無いようにしてください。



○感染予防について

感染のリスクを減らすために大きく二つの事に気を付けましょう。それは、「ウイルスが付く可能性があるものを触らない」、「ウイルスが付いた手で目や口を触らない」ことです。

例えばドアノブ、つり革、蛇口といった不特定多数の人が触るものを、なるべく触らないようにする事で、接触感染のリスクを減らすことができます。やむを得ず感染源に触れたり、飛沫を浴びてしまった場合でも、その手を目や口に触れさせないようにする事や、手洗いによりウイルスを流してしまうことで感染のリスクを防ぐことができます。

ウイルスの感染経路を理解し対策することが重要です。

かからない努力も大切ですが、うつさない努力も大切です。

密閉空間・密集地帯・他者との密接、といった飛沫感染の大本となる3密を避けるように行動しましょう。

咳やくしゃみによる飛沫やウイルスの飛散を防ぐために、咳エチケットを守ることを意識しましょう。咳やくしゃみをする時は、マスクの着用、またはハンカチやティッシュで口と鼻を覆い、他人から顔を背け、1メートル以上離れるようにしてください。使用したティッシュはすぐゴミ箱へ捨て、その後手を洗えば完璧です。ティッシュやハンカチがない場合は、洋服の袖や肘等で口と鼻を覆うようにしてください。手で塞いでしまうと、接触感染のリスクを高める恐れがあるので避けるようにしましょう。

手洗いの方法やタイミングなども重要です。家庭内でも、外出から帰った際はもちろん、咳やくしゃみをした後や、鼻をかんだ後等、感染源となる可能性の高い場所に触れた後は小まめに手を洗うようにするといいいでしょう。これは外出中であっても変わりません。

可能であればアルコールを含んだウェットティッシュ等を持ち歩き、いつでも手指消毒ができる環境を整えてください。

以上、いつでも誰でも簡単にできる対策について紹介致しました。

今回のコロナウイルス感染症の流行は、先の見えない非常に恐ろしい事態です。しかし、皆が一致団結し、ウイルスの蔓延しづらい社会を作ること、乗り越えられる事態でもあります。慌てず、騒がず、皆でこの事態に立ち向かいましょう。

せきエチケットを守ろう



対話支援機器 comuoon®の導入

～声や音が聞こえにくい～

音や声が聴こえにくいというのは、「こもって聴こえることで認識しづらい」というケースがほとんどだそうです。その為、こもった音を大きくしても、聴こえにくさは変わりません。

本当に「聴き取りやすい音」とは、大きな音で話しかけることではありません。音声を聞きとれる形で脳に届ける必要があります。



～comuoon®とは～

comuoon®は、聴こえに悩む人が自ら工夫するのではなく、話す側から聴こえの改善に歩み寄るという発想から生まれた技術で、聴こえに悩む方、その方と関わる健聴者の方、その間に必要なサポートを行う機器です。

通常の補聴器やスピーカーとは違い、マイクから入力された音を明確に分解し特に聞こえにくい高周波音域を聴き取りやすいクリアな音へと変換する技術が使用されています。この技術により、聞き取りやすい音声を届けることが可能となっています。



comuoon®は医療機関をはじめ、自治体の窓口や各種企業も導入を始めており、当院では総合リハビリテーションセンターに持ち運び可能なモバイルタイプが3台導入されています。リハビリの場面をはじめ、研修会等でも使用しております。

患者様、ご家族様をはじめ様々な方と円滑なコミュニケーションを取る為のサポート機器として活用していきたいと思っています。



1日3食『いつ』食べる？『どう』食べる？ 時間栄養学

時間栄養学とは「何をどれだけ」「いつ食べるのか」という視点を考慮した栄養学です。

今回はこの【時間栄養学】を基に、健康につながる食事のポイントをご紹介します。私たちの体の中で行われている消化・吸収・代謝の働きは体内時計によって大きく左右されています。

①基本はやっぱり朝食！



私たちの体内時計は、毎日朝の光と朝食でリセットされます。



朝食をとらないと体が目覚めないばかりか脳も栄養不足になります。

食事の内容も大切です。朝ごはんにご飯やパンなどの糖質をとると、脳の栄養となり代謝を高めます。また、たんぱく質は活動するために必要な筋肉を増やすよう働きます。

②食事の量は朝4：昼3：夕3

体内時計の働きで、私たちの体は、夕食の時間帯に食べたものを体に脂肪として蓄えるようになっています。

そのため、夕食の量が多い人は太りやすく、体内時計が乱れ夜型になりがちです。



食事の量はできれば朝4：昼3：夕3が理想です。

夕食の量を減らすのが難しければ、昼食と同じくらい朝食もしっかり食べましょう。

③食べる順番・速度

野菜を先に食べる・ゆっくりよく噛んで食べることで食後の高血糖を予防



野菜や海藻・きのこ等を最初に食べるとこれらに含まれる食物繊維の作用により、後から食べるご飯の糖質がゆっくりと吸収されます。

また、ゆっくりよく噛んで食べることで満腹感を得られ食べ過ぎの予防につながります。

時間栄養学の基本は、体内時計を意識した生活リズムを実現することです。

～規則正しい生活リズムを心がけましょう～

新入オリエンテーション

令和2年3月17日（火）～19日（木）、4月1日（水）～6日（月）の9日間、法人主催の新入オリエンテーションを行い20名が当院へ入職しました。

新型コロナウイルスが懸念される中、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、感染に十分注意しながら無事終了しました。



《新人より一言》

研修で学んだことを基礎として今後の業務に活かすとともに、一つでも多くのことを学び日々の看護に繋げることで成長していきたいと思います。

社会人としての基本的接遇や、医療従事者として心がけておかなければならないことなどしることができ、患者さまやご家族が安心して療養できるよう関わらせて頂きたいと思いました。



社会人として、医療人としての心構えを学ぶことができました。

研修で学んだことを、今後の業務のなかで活かせるように努めていきたいです。

○個人情報保護方針

当院は、個人の権利・利益を保護するために、個人情報を適切に管理することを社会的責務と考えます。

個人情報保護に関する方針を以下のとおり定め、職員及び関係者に周知徹底を図り、これまで以上に個人情報保護に努めます。

1. 個人情報の収集・利用・提供

個人情報を保護・管理する体制を確立し、適切な個人情報の収集・利用および提供に関する内部規則を定め、これを遵守します。

2. 個人情報の安全対策

個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などに関する万全の予防措置を講じます。万一の問題発生時には速やかな是正対策を実施します。

3. 個人情報の確認・訂正・利用停止

当該本人（患者さま）等からの内容の確認・訂正あるいは利用停止を求められた場合には、別に定める内部規則により、調査の上、適切に対応します。

4. 個人情報に関する法令・規範の遵守

個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。

5. 教育および継続的改善

個人情報保護体制を適切に維持するため、職員の教育・研修を徹底し、内部規則を継続的に見直し、改善します。

6. 診療情報の提供・開示

診療情報の提供・開示に関しては、別に定めます。

7. 問い合わせ窓口

個人情報に関する問い合わせは、各部署責任者または以下の窓口をご利用ください。

個人情報保護相談窓口：地域医療連携センター

○診療情報の提供及び開示につきまして

当院では、患者さま・ご家族より診療情報の提供及びカルテ開示についてお申し出があった際は速やかに対応させていただくシステムになっておりますが、必要な条件書類等がございます。担当の窓口にて対応させていただきますので、ご遠慮なく病棟スタッフへお申し出ください。

○セカンドオピニオンにつきまして

患者さま・ご家族が、当院で十分納得して頂き、患者さまが主体的に治療を受けて頂く為に、第三者である他医療機関の医師の診療をうけることについてはそれに応じさせていただいております。同じく他医療機関を受診されている患者さま・ご家族についても対応させて頂いております。詳しくは地域医療連携センターまでお尋ね下さい。

○患者さまの権利宣言

すべての人は、人格を尊重され健康に生きる権利を有しています。患者さまにおかれましては、健康を回復し、維持増進するために、医療スタッフの助言協力を得て、患者さまの選択のもとに、最善の医療を受ける事は人として基本的権利です。

【平等で良質な医療を受ける権利】

患者さまは本人の経済的社会的地位、年齢、性別、疾患の種類などにかかわらず平等で良質な医療を受ける権利があります。

【選択の自由の権利】

患者さまは担当医師および医療機関を選択し、または変更する権利があります。またいかなる時でも他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

【知る権利】

患者さまは、自らの状況（病名、病状、検査結果）について納得するまで十分に説明を受ける権利があります。

【自己決定権】

患者さまは納得できるまで説明を受けたのち、医療スタッフの提案する医療行為を自分で選択する、同意して受ける、あるいは拒否する権利があります。

【個人情報の保護】

患者さまは、全ての個人情報、プライバシーが守られる権利があります。

氷山の一角（意見箱より）

（患者さま・ご家族様からのご意見・ご要望に関する回答）



・職員のユニフォームを白ではなく色付きにしてみてもいいでしょうか？患者も色で元気をもらえる事もあるし、職員も特に女性も下着など気にしないで済むのではないのでしょうか？失礼ですが、病棟が古いので明るい色があると元気に楽しくなれると思います。

➤貴重なご意見ありがとうございます。当院は新病院建築を控えております。ユニフォームの見直しにつきましては、その際に検討する予定です。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

ご意見箱は、外来・各階食堂談話室・腎センターロビーへ設置しております。

患者・ご家族様よりいただきましたご意見に対して、当院では毎月開催しております「サービス向上委員会」にて検討し、改善策を導き出して対応させていただいております。

今後とも、お気づきの点などございましたら遠慮なくお寄せいただきますようよろしくお願い申し上げます。

※本掲載分の個人名・団体名につきましては個人情報保護法に基づき、本人またはご家族の同意を得て掲載されております。



医療法人 玉昌会 加治木温泉病院

〒899-5241

始良市加治木町木田4714

TEL 0995-62-0001（代）

FAX 0995-62-3778

URL <http://www.gyokusyoukai.com>

診療科目

- 内科 ●腎臓内科(人工透析) ●リハビリテーション科
- 整形外科 ●脳神経内科 ●脳神経外科 ●消化器内科
- 消化器外科 ●肝臓内科 ●循環器内科 ●外科
- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ●皮膚科 ●泌尿器科 ●歯科

